

インフルエンザ定点当たり報告数

インフルエンザは定点把握対象疾患であり、医療機関の中から選定し、協力していただいている定点医療機関からのみ患者数が報告h 3 ならば、1つの医療機関で1週間に3人のインフルエンザ患者を診療した、ということになります。

この数字が1以上であれば、その地域は流行レベルに入ったことになり、10以上なら注意報レベル、30以上なら警報レベルの流行となります。警報が解除されるのはこの数字が「10」を切ってからです。

○2019-2020シーズンの全国の定点報告（国立感染症研究所調査）：2019年第38週（9/16-9/22）の定点当たり報告数が1.16となり、全国的な流行開始の指標である1.00を超えました。

2018年は、第49週で定点当たり報告数が1を超えており、2019年が例年より早く1を超えたことから、国立感染症研究所による報告が38週から開始されました。39週以降1未満となり、42週で0.72まで低下しましたが、43週（10/21-10/27）0.8、44週（10/28-11/3）0.95と再度上昇しておりました。45週で流行開始の指標である1.00を上回りました。

2019年第48週の定点当たり報告数は5.52（患者報告数27,393）となり、前週の定点当たり報告数3.11（患者報告数15,390）より増加し、45週以降流行開始の指標である1.00を上回っています。全国的にインフルエンザが流行しております。

都道府県別では北海道(16.76)、青森県(15.48)、石川県(10.52)、富山県(10.42)、宮城県(9.23)、福島県(8.29)、広島県(8.22)、山口県(7.73)、神奈川県(7.08)、**熊本県**(6.61)、新潟県(6.44)、**福岡県**(6.3)、東京都(6.17)、山形県(6.15)、埼玉県(5.84)、**長崎県**(5.69)、愛知県(5.48)、**鹿児島県**(5.43)、**宮崎県**(5.24)、滋賀県(5.15)の順となっています。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況を見ると、直近の5週間(2019年第44~48週)ではAH1pdm09(94%)、AH3亜型(5%)、B型(2%)の順となっています。

詳細は国立感染症研究所ホームページ

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>)を参照されたい。

○2019-2020 シーズン 長崎市、長崎県の定点報告状況(長崎県感染症情報センター報告より) :

第48週(11/25-12/1)のインフルエンザ報告は、長崎市(7.24)、長崎県(5.69)で、第47週(11/18-11/24) 長崎市(5.71)、長崎県(4.13)と比較すると、長崎市、長崎県ともに増加し、いずれも流行レベルの指標1を超えておりました。

長崎市は、40週、41週、42週と流行レベル(1以上)となりましたが、41週をピークに減少し、43週では1未満となりました。しかしながら、44週では、0.94と再度増加し、45週で1を超えました。

◎長崎県は、39週以降1未満となりましたが、長崎市が40-42週で1を超え、流行レベルとなりました。43週で1未満となりましたが、45週で1を超えました。今後より注意が必要な状況になりました。

(長崎県感染症情報センターHPより抜粋、1部改変)

インフルエンザ等の感染予防のために、十分な休息、手洗い、うがい、マスクの着用等を心掛けてください。インフルエンザが疑われる症状として、のどの痛みや鼻汁・鼻づまり、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ等がみられましたら、早めに医療機関を受診してください。